

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401129		
法人名	株式会社ハウジングいとう		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	札幌市西区発寒4条2丁目3-12		
自己評価作成日	平成22年5月21日	評価結果市町村受理日	平成22年7月28日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojohohokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401129&S CD=370
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル 601B
訪問調査日	平成22年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個別の対応 理念にも掲げていますが、それぞれの思いや考えを自然に表現され、自由闊達にその人らしい生活が送れるよう雰囲気作りや個性の受け止めに努めています。また、集団生活をしていく中でのルールやマナーは必要ですが、他者に影響を及ぼしたり、危険のない限り規制のない自由な生活を心がけています。
 新たに入居された方も、すんなりとホームの生活に馴染まれ、環境の変化によるストレス等の心配もほとんど見られず経過されます。
 1階は明るく活発な方が多く、冗談を言い合ったり笑い声が多く聞かれます。掃除や台所仕事にも率先して参加され、今まで培った得意とするを十分発揮された生活をされています。
 2階は絵や貼り絵、編み物等細かな作業が好まれ、沢山の作品が飾られています。
 冬場出かける機会の少ない時期にも、フットマシーンや歩行練習など日々欠かさず下肢運動に励むなど、リハビリに努めています。日々の小さな積み重ねで、車椅子生活で介助を要した方が、現在では歩行器を操作し、台所仕事にも参加されるようになった方もいらっしゃいます。
 また、開設から月一度音楽療法を実施しておりますが、歌はもとより、楽器や嚙下運動、回想法なども大きな声を出し、楽しみながらリハビリが行えるプログラムで好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市内の住宅地にある5階建てマンションを改築し、1～2階を2ユニットにした事業所である。事業所内の居間、居室は日々清潔さや整理整頓が行き届いており、共用空間は、利用者が職員とともに作成した手づくりのカレンダーや季節感のある絵、貼り絵などの作品や写真が数多く飾られている。管理者、職員は優しく思いやりをもって、利用者に寄り添いながら利用者の様子に気を配っており、利用者はそれぞれのペースで明るくゆったりと過ごしており、家庭的な雰囲気を感じる。職員は相互の信頼の上に意思疎通も良好で、管理者を始めまとまりのあるチームワークが窺われる。食事アンケートや小樽水族館、旭山動物園など遠出の外出など利用者の希望や意向を大切にしている。入居時には車椅子を利用し歩けなかった人が歩行器使用で歩けるようになるなど利用者の残存機能の向上に運動機材を取り入れ、歩行訓練や手作業などの生活リハビリやレクリエーション、療法士による音楽療法にも力を入れている。防災訓練には、夜間を想定した総合非難訓練の外に事業所独自の訓練を数多く実施し、近隣住民も協力参加しており、事業所内には防火扉、非難出口2箇所整備している。近く消防署につながる自動通報装置を設置予定するなど予防安全対策に努めている。町内活動にも利用者とともにゴミ拾いなどの清掃活動に積極的に参加している。利用者本位の運営やケアサービスをしており、これからも地域に期待される事業所となっている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員の思いを理念に掲げ、玄関・居間・休憩室に掲示し日常的に認識できるようにしてきた。 ・毎月取組状況について意見交換している。	地域との繋がりを大切に事業所独自の理念を玄関、居間など共用空間に掲げている。毎月のユニット会議で理念に基づき職員が具体的に実践したことをお互い確認し合い理念を共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事に参加し皆さんと交流が持て、年数会の清掃活動にも地域の一員として参加できた。散歩などでも気楽に声をかけてくれたり、挨拶を交わしている。	利用者と共に地域のゴミの清掃や夏祭りなど町内会行事に積極的に参加するほか、近隣の方との挨拶や世間話、山菜をいただくなど様々な日常的交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・現在特にありませんが、機会があれば貢献していきたい。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・「ひやりはっ」と「事故報告書」の経緯、詳細を報告、併せて身体レベルの低下もご理解いただきながら、皆さんのご意見を聴取している。また、ホームの行事や、利用者の近況などもご家族に伝わるよう努めている。	運営推進会議には、地域との協力体制や「ひやりはっ」と「事故報告」など積極的に情報開示され、参加者からも前向きな意見が出されている様子が議事録からも窺われる。議事録もきちんと整備している。結果はユニット会議などに報告し、運営やケアに反映している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・連絡相談を交わす事項がなかった。	ホーム全般の相談はないが、個別的な事項に関しては、日頃から相談や情報交換を行っている。行政担当者のホーム訪問もあり、常に連携を深めるように努めている。地域包括支援センターとも連携している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体的な拘束は勿論、当ホームで考えられる拘束について勉強会を開き、言葉かけ、コミュニケーションの不適切など注意を払ってきた。 ・玄関の施錠については、家族からも防犯上必要であるご意見があった。	身体的拘束では内部での勉強会やミーティング、カンファレンス等で具体的な行為について話している。全職員が身体拘束の弊害を認識し共有している。身体的拘束ゼロを合言葉に日常ケアに心掛けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待防止法についての外部研修会に参加し意識を高めるようにしている。 ・内部研修でも勉強会を開き、日々のケアの見直しを図るなど行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在該当者はおらず。必要性があれば支援活用を考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は利用者やその家族が安心して入居していただけるよう説明に努める。また、入院などで契約切れになる場合、将来の住居を医療関係者共々、利用者や家族に不安のないよう対応してきた。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・何かあれば直接職員、管理者に表出できる関係が築けるよう日頃努力している。利用者の要望やご家族の貴重なご意見は運営に反映させている。	玄関入り口に「声の箱」を設置している。家族の来訪時に積極的に話し合いを持っている。運営推進会議にも家族が参加しており、利用者も含めそれらの意見・要望があれば運営やケアに反映している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一度の全体会議では、各自の考えなど意見交換の機会がある。また、ユニット毎の提案意見もあって、必要事項であれば反映していく。	管理者は全体会議やユニット会議で積極的に職員の意見等を聞く機会を設けている。今回、要望などで運営推進会議や内部会議等に利用できる多目的室を整備している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全体会議など全職員が参加してもゆとりのある部屋を作り、ゆっくり休憩もとれるよう職場環境を整備した。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は職場に来て職員や利用者とのコミュニケーションをとるなどして、全体の把握を行う。外出行事には運転手や介助員として参加し、介助の一端をになう役割を持って観察している。研修や勉強の機会を持つことを進めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・区内の管理者連絡会議のなかで、講師を招いた勉強会を催し、参加交流の機会が持てる。同業者の活動、取り組みなども参考にさせていただくこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用者はしっかりした判断ができない方が多く、より不安が増すと言うことがあります。こちらが多く語るより、相手の話を傾聴し、安心感を持っていただきながら関係を築いていきます。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・初期段階では利用者に対する悩みなどお聞きし、今後の参考にしたり、できる限り不安を解消できるよう説明に努めます。要望にはできる範囲でお応えしますが、他の方とのバランスも考慮していきます。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・お話を伺いながら、どのような支援が必要か、推察しながら必要な支援を見極めます。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者が得意とすることや、できる役割を見つけ一緒にいきます。職員が忙しくしていると、利用者から「手伝うよ」と言ってくれ、労いの言葉をかけてくれます。お互い助け合う関係を築いています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・職員はそのように理解しています。ご家族でなければという事柄もあります。ほとんどの家族は相談をしながら、協力体制にありますが、家族関係も様々であります。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・訪問に見えられた時は、次回の訪問につなげられるよう、気持ちの良い対応でお迎えしています。	家族を含め親族、知人の訪問もあり、継続的な交流ができるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・意思表示が困難であったり、協調性が薄れた方は、職員が中に入り、気分だけでも皆さんと交われる雰囲気を設定している。 ・関係を調整し易い少人数ずつの余暇活動を充実させている。 ・食事の座席などは、楽しく食事が取れるよう、利用者同士の関係に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・病院での治療が必要であるため、経過相談程度の支援に止まる。			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常の関わりや会話の中から思いや希望を聞き、汲み取るようにしている。困難な場合は、ご家族から情報を得たり、本人の立場になって考えるようにしている。	センター方式を活用して、家族から得た情報や本人の日頃の行動や表情、過去の生活歴を基に本人の思いや暮らし方の希望、意向を汲み取り、職員間で情報の共有をしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・相談に見えられた時、入居手続きの際、ご家族からお話を伺い、また受けていた直近のサービス事業者からも情報をいただきます。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・自ら得た情報とともに、ケース記録・申し送り・他の職員からの情報を基に、一人ひとりの状態を理解していきます。変化を見過ごさないように、記録・申し送りで周知します。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日常の発見や情報などは、日々のケアで試みることもある。課題や検討が必要な事項は、申し送りや会議で話し合う場を設け、介護計画に反映している。ご家族の意見は普段来訪された時にお聞きするようにしている。	センター方式を利用し、日常生活の言動等から利用者の意向を汲み取るほか、一人ひとりの利用者の役割や食事、排泄、睡眠等の状況や、さらに家族の要望、医師・看護師の意見等を参考としながら、全体会議やユニット会議等を通じて介護計画の定期及び随時見直しを含め計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別の記録に日々の様子や変化が綴られている。しかし、個人の目で見、感じた気づきや工夫を、より詳細に記載し、介護計画の見直しに生かしたい。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者の心身の変化、家族の事情などに応じて、できる限りの対応に努めている。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の行事や催し物に参加し、利用者が地域の一員としての誇りや意識を持ち続ける支援を提供			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者、ご家族の希望に応じて、入居以前のかかりつけ医を継続したり、新たに協力医療機関に変わったりします。専門的な治療が必要な場合は、継続的に受診している、かかりつけ医をお勧めします。	受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医を利用し、通院の際は家族対応を原則としているが、家族の都合により職員の同行で通院支援も行っている。医療情報は口頭や電話で交換、日誌に記録し、家族とも密にし適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1度訪れ、管理者から1週間の報告を受け、各自の健康チェックを行います。職員間でも情報交換、確認が行われます。往診日は立会い、特変事はいつでも電話で相談が受けられる体制にあります。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医師、医療関係者は、ホームでできる支援、できない支援を理解しており、状態についての情報交換も適時行える関係にある。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居の際に重度化、終末についてのご説明をしますが、実際には状態を見ながら今後についての話し合いを進めていきます。最終的には医師を含め、三者で希望なども含め、話し合いの場を設け決定していきます。	重度化や終末期の指針を策定し、事業所ができることを説明し家族の同意をもらっている。重度化時には、医療機関との連携はとれている。医師や看護師の助言を受けながら、家族の意向、対話を重ねチームとして取り組むことにしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・内部研修で早期の判断や気付きの大切さ、1・2階職員との連携、冷静な連絡の重要性などの訓練を実施した。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・昨年は実際の避難誘導、図上訓練を6回実施 ・同じマンションの住民の方に避難誘導の協力が得られた。 ・近隣に避難場所を確保 ・近隣職員に避難場所、応援体制の承諾	消防署の協力のもとで総合避難訓練を実施している。ホーム独自でミニ非難訓練を5回、図上訓練1回を実施し近隣住民も参加している。避難場所近隣に確保、職員家族の応援体制や地域住民の協力体制を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・言葉掛けや対応に配慮し良い関係を築けているが、介助に抵抗があったり、意思疎通が困難な方への思いを汲み取る対応を強化していきたい。	入浴やトイレ介助の際など本人を傷つけないように日頃から個人を尊重した言葉がけに配慮している。会議や事あることに会話の例を以って職員への意識付けに努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常に於いて皆さん自由に希望や思いを述べられ、その人らしさを表現されています。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個別の買い物や散歩などの希望は直ぐには応じられない場合もあるが、時間を置いて答えている。また、余暇活動は小単位に別れ、個人の好みやペースに合わせた内容を提供している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その日その日のおしゃれを楽しんでいる方も居られるが、ご本人が気に入ったものを集中して着る傾向もある。他のものを勧めても直ぐに着替えてしまうため、最終的にはご本人の意思にお任せしている。			
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・昨年に比べ利用者のADLが向上しており、職員と一緒に台所に立ったり、盛り付けや後片付けと活躍している。	職員も一緒に食べながら好き嫌い、嚥下の状況を観察している。食事の準備では本人と一緒に材料の下ごしらえなどの準備や後片付けを担い楽しみながら行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・年齢や運動量をみながら、食事摂取量、バランスに配慮していますが、コレステロールが高値な方も多いため、より個別の必要量を考えて提供したい。 ・水分量は一日に必要な量を目安に、チェックし勧めています。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、歯磨き介助を行い、ご自分でできる方には声掛けをしています。 就寝時の管理ができない方は、義歯をお預かりします。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄票を活用し、時間をみながらトイレ誘導しています。着衣の上げ下ろし、拭き取りなど、できる動作は見守ります。	排泄チェックを行ないながら、排泄パターンを把握し、体調管理し、日中はトイレでの排泄支援を中心に行っている。オムツは日中と夜中を使い分け、又はポータブル化へと自立に向けた支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事に野菜を多く取り入れ、水分を補うようにしていますが、腸の働きも低下しており、整腸剤・下剤などでコントロールし便秘予防しています。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴は曜日が決まっています。以前は毎日入浴を実施していましたが、入浴があることで、その日にしたいことができないこともありました。 ・入る時間帯、順番などは他の方と重ならないように希望に合わせています。入浴に拒否がある方は、機嫌を見ながらタイミングをみています。 ・同性介助も希望に応じ実施しています。	週に2回は入浴が楽しめるよう、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。入浴を拒否する利用者には、声かけ、時間帯の調整、足浴、清拭など工夫した支援を行っており、清潔保持には心がけている。同性介助は希望者に合わせ応じている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・その日の様子や疲労感を観察し、臥床を促したり、休息を取ったりしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服薬処方箋一覧が手元にある、薬の種類、注意書きなど確認できる。内服薬の変更などは申し送りにより周知され、薬による変化を観察している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・掃除や台所のお手伝いによって、生きいきした表情が出る方、作品作りなど興味のあるものに集中する方、散歩など外の空気で癒される方など様々な気分転換を支援している。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・昨年は利用者がテレビを見て、話題の旭山動物園へ「一度行ってみたいね」という言葉を聞き挑戦したが、皆さんの笑顔と頑張りにより今年も企画している。	季節や天候によって、庭での外気浴や近くの公園まで散歩、買い物、町内会行事参加、また利用者の希望により、旭山動物園など遠出し、普段いけないところにも出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・少額のお金を所持している方、お小遣を自己管理で自由に買い物されている方もあります。職員はお金を持つことの大切さを理解していますが、紛失やしまい忘れなどもあるため、殆どが事務所で管理です。利用者から希望があればその都度使える体制にあるため、不便は感じていないようです。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を所持の方もありますが、ほとんどの方は自ら電話をかけることなく、希望があればこちらで取り次ぎます。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・職員は季節に応じた作品を考案し、皆さんで手作りのものを廊下などに展示しています。テレビ音、採光などはその時々で調整し、不快を感じさせないよう配慮しています。	臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。居間、廊下の共用スペースには利用者手づくりの貼り絵・カレンダーなどの季節感溢れる作品や行事の写真が飾られ、清潔で整理され居心地のよい共有空間となっている。洗面台は体の状態に配慮した昇降式を設置している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・皆さん安心して過ごせる定位置があって、気の合う方たちでくつろいでいます。雑音から離れたときは、少し離れたソファに避難したりする姿も見られます。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた物を持参されたり、お部屋のスペースに合った大きさのものを新たに購入される場合もあります。	居室には、本人や家族と相談しながら、自宅で使っていた利用者馴染みの家具、小物、写真、生活用品やテーブル、ソファなど新たに購入するなど、それぞれの雰囲気の中で居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室やトイレの混乱は入居され2～3日で改善されます。居室前にはネームプレート、トイレはトイレマークがあり、室内はバリアフリーで安全面に配慮されています。		